

大田区地域福祉活動計画 推 進 委 員 会

(令和5年度 第2回)

○日 時：令和5年10月16日(月)14時00分～
○会 場：大田区社会福祉協議会 4階会議室

1. はじめに(進行：事務局)

2. 委員長挨拶

3. 審議事項(進行：委員長)

(1) 第1回住民懇談会の実施報告

資料1

(2) 第7次リボン計画の策定に向けて

①リボン計画と経営計画の位置づけの整理について

資料2

②計画の概要

・第7次計画の策定にあたって

資料3

・目次(案)

資料4

・第7次計画体系(案)

資料5

・第7次計画全体イメージ図(案)

資料6

・取組ごとの整理について(案)

資料7

4. 意見交換

5. 連絡事項その他

(1) 第2回住民懇談会の開催について

(2) 次回開催予定：日時 令和6年2月13日(火)10時から正午
会場 大田区社会福祉センター4階会議室

【参考資料】

- ・第6次大田区地域福祉活動計画(概要版)
- ・ボランティアコミュニケーション10.11月号

大田区社会福祉協議会 住民懇談会の実施結果 ＜意見まとめ＞

1. 地域別の実施結果

住民懇談会の参加者数は、4地域合計で93人でした。

地域	日時・会場	参加者数	グループ数
調布地域	7月5日(水)14時～16時 鶯の木特別出張所	17人	4グループ
大森地域	7月10日(月)10時～12時 入新井集会室	36人	8グループ
蒲田地域	7月11日(火)18時～20時 大田区社会福祉センター	24人	6グループ
糀谷・羽田地域	7月12日(水)10時～12時 羽田地域力推進センター	16人	4グループ

2. 住民懇談会の意見まとめ

住民懇談会の意見は、テーマ1では540件、テーマ2では444件となっています。

地域	テーマ1の意見	テーマ2の意見	計
調布地域	101	66	167
大森地域	176	142	318
蒲田地域	142	136	278
糀谷・羽田地域	121	100	221
計	540	444	984

3. 住民懇談会の意見分類について

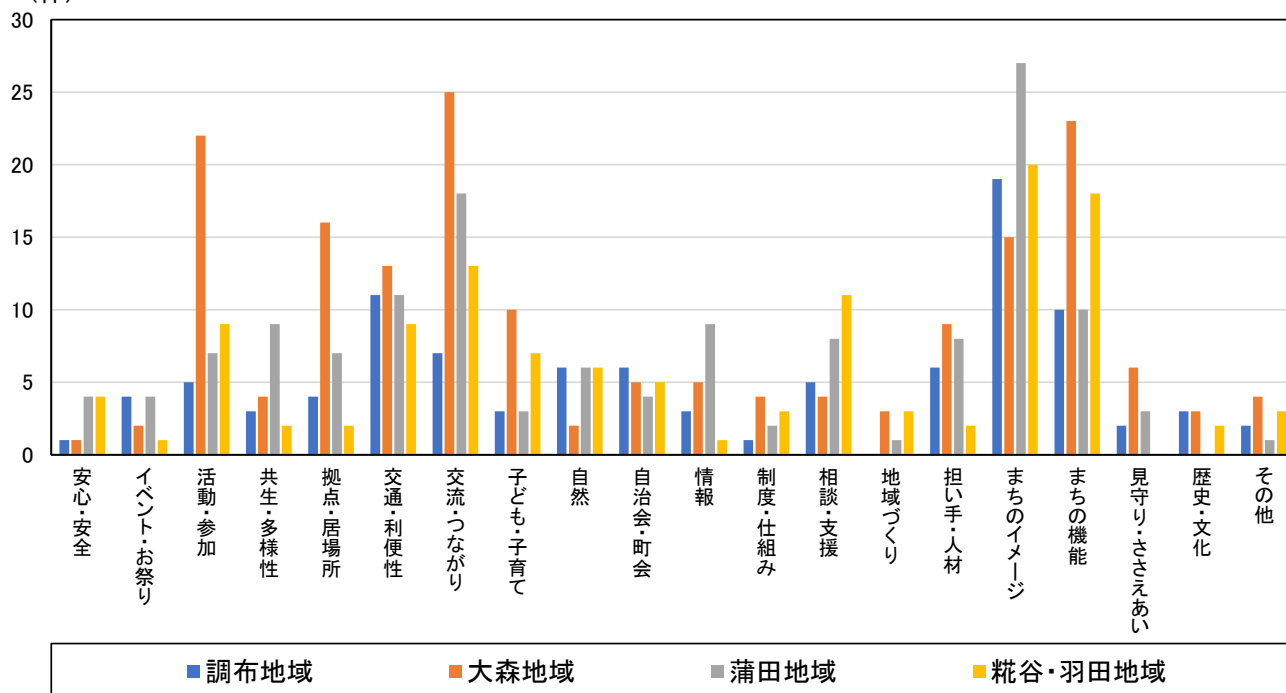
住民懇談会の意見は、テーマ1、テーマ2ごとに以下の20項目から分類、整理しています。

安心・安全 、 イベント・お祭り 、 活動・参加 、 共生・多様性 、
 拠点・居場所 、 交通・利便性 、 交流・つながり 、 子ども・子育て 、
 自然 、 自治会・町会 、 情報 、 制度・仕組み 、
 相談・支援 、 地域づくり 、 担い手・人材 、 まちのイメージ 、
 まちの機能 、 見守り・ささえあい 、 歴史・文化 、 その他 、

4. テーマ1「地域のいいところ、強み、困っていること」の意見について

テーマ1では、「下町的」、「区内で地域格差あり」等の【まちのイメージ】や「福祉施設が多い」、「公園は沢山あるが狭い」等の【まちの機能】の区全体、地域に持つイメージの意見が多くなっています。

上記以外では、【交流・つながり】のほか、【交通・利便性】、【活動・参加】、【拠点・居場所】、【相談・支援】、【担い手・人材】、【子ども・子育て】が多くなっています。



(単位:件)

分類	調布地域	大森地域	蒲田地域	糀谷・羽田地域	区内全体
安心・安全	1	1	4	4	10
イベント・お祭り	4	2	4	1	11
活動・参加	5	22	7	9	43
共生・多様性	3	4	9	2	18
拠点・居場所	4	16	7	2	29
交通・利便性	11	13	11	9	44
交流・つながり	7	25	18	13	63
子ども・子育て	3	10	3	7	23
自然	6	2	6	6	20
自治会・町会	6	5	4	5	20
情報	3	5	9	1	18
制度・仕組み	1	4	2	3	10
相談・支援	5	4	8	11	28
地域づくり	0	3	1	3	7
担い手・人材	6	9	8	2	25
まちのイメージ	19	15	27	20	81
まちの機能	10	23	10	18	61
見守り・ささえあい	2	6	3	0	11
歴史・文化	3	3	0	2	8
その他	2	4	1	3	10
計	101	176	142	121	540

【交流・つながりの主な意見】

- 新住民・若い親・家庭などつながりづくりが難しくなってきた。
- 横のつながりが少ない。
- 世代間の交流がない。
- 若い人と高齢の人とうまくコミュニケーション取れない。

【交通・利便性の主な意見】

- 空港や駅などが近くにある。
- 高齢の方で足腰の弱い方の移動手段が少ない。
- 交通の便は地域差がある。
- 土手側は特に不便。

【活動・参加】

- 地域の為に若い男子が参加してくれるようになった。
- 子ども食堂の輪が広がっている。
- ボランティアをしたい人の相談窓口。
- 地域活動に男性の参加が少ない。

【拠点・居場所】

- 集う場所が多い。
- うぐいすネットでとれない。
- シニアが気軽に使える施設が少ない。
- 空き家を無料で提供してほしい。

【相談・支援】

- ワンストップの相談先。
- 相談窓口を分かりやすくしてほしい(分かりづらい)。
- 5080 問題に対して具体的な取り組みがわからない。

【担い手・人材】

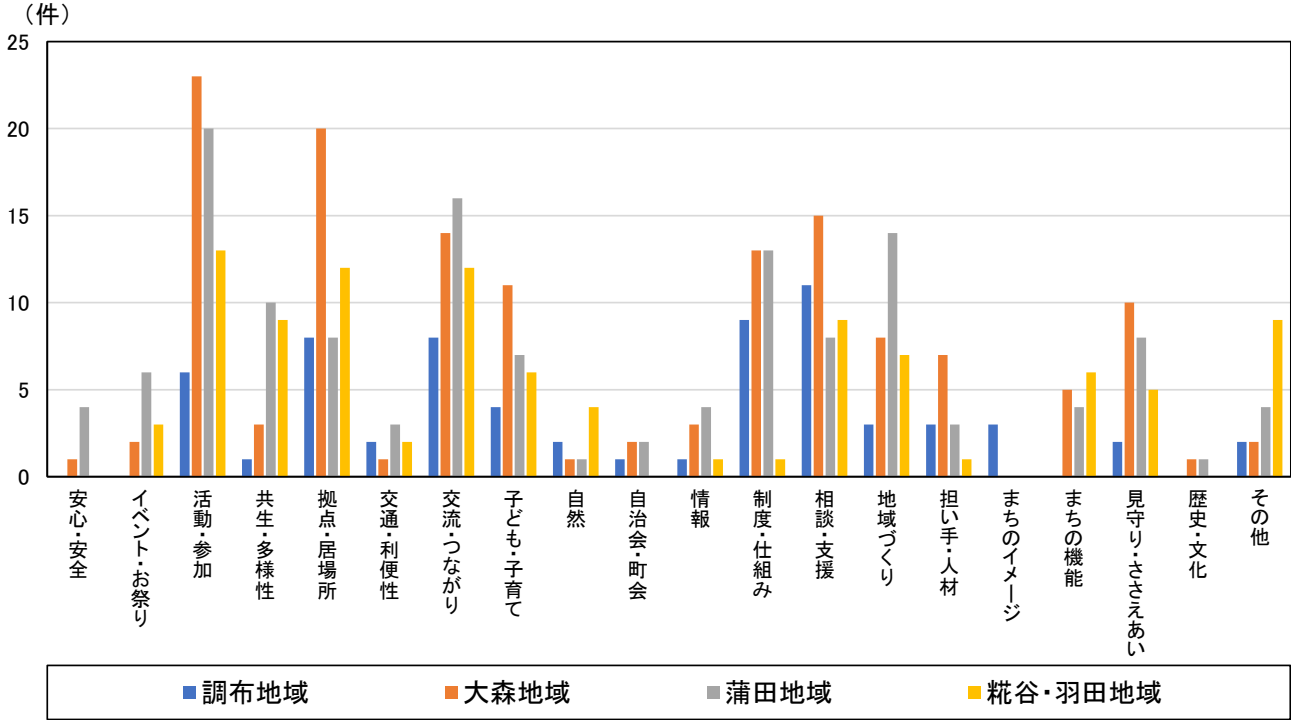
- 福祉に従事する方が減少、担い手不足と高齢化。
- コロナによってボランティアに対する情熱が冷めてしまっている。
- 町会役員のみなり手がいない。

【子ども・子育て】

- 子どもの居場所が少ない。
- 子どもへの関心が薄い様に感じる。
- 子どもの居場所、ひきこもり、不登校。

5. テーマ2「5年後の地域の未来を語ろう」の意見について

テーマ2では、【活動・参加】が62件で最も多く、【交流・つながり】、【拠点・居場所】、【相談・支援】、【制度・仕組み】、【地域づくり】、【子ども・子育て】、【見守り・ささえあい】、【共生・多様性】の順に多くなっています。



(単位: 件)

分類	調布地域	大森地域	蒲田地域	糀谷・羽田地域	区内全体
安心・安全	0	1	4	0	5
イベント・お祭り	0	2	6	3	11
活動・参加	6	23	20	13	62
共生・多様性	1	3	10	9	23
拠点・居場所	8	20	8	12	48
交通・利便性	2	1	3	2	8
交流・つながり	8	14	16	12	50
子ども・子育て	4	11	7	6	28
自然	2	1	1	4	8
自治会・町会	1	2	2	0	5
情報	1	3	4	1	9
制度・仕組み	9	13	13	1	36
相談・支援	11	15	8	9	43
地域づくり	3	8	14	7	32
担い手・人材	3	7	3	1	14
まちのイメージ	3	0	0	0	3
まちの機能	0	5	4	6	15
見守り・ささえあい	2	10	8	5	25
歴史・文化	0	1	1	0	2
その他	2	2	4	9	17
計	66	142	136	100	444

【活動・参加】

- 誰もが役割を持って生きていけるようになるといい。
- ノウハウ持っている人を地域の中で活かす(地域に再就職)。
- 自分のできることをボランティア登録。
- 誰もが参加しやすい地域 子どもも、障がい者も、病気になっても。
- 社会的孤立者に対して、子ども食堂以外のシニア食堂やオトナ食堂の開催、拡充。

【交流・つながり】

- 地域のコミュニティを活発にして定期的に交流会開催(ランチ会でも)。
- 出張所を単位に学校・町会・区目団体も一緒になって活動交流会。
- 学生が気軽に交流できる仕組みがあると良い。
- 障がいのある方、高齢者接点があると良い。
- 高齢者や子どもとか交流イベントができると世代交流実現の機会が増える。

【拠点・居場所】

- 図書館(公共施設)を拠点としてもっと活用できるのでは。
- 子ども、高齢者が交流できるサロンがあちこちにある。
- 管理の問題はあるが、空き家を地域の集いの場にしてほしい。
- 障がいがあっても一緒にいられる居場所。
- 多世代、多文化のカフェ(居場所)が近くにある

【相談・支援】

- 困ったときに相談できる環境 となり近所さんでも自治会でも相談機関でも。
- 困った時にすぐに対応してもらえる所(人)。
- 地域の中で知っているコトやってみたいコトを話すミニ懇談会の常設とか。
- 要配慮者の方達 無理なくアパートを探せる町。
- ちょこっとサービスのな団体がたくさんあり高齢者・障がい者なども働いている。

【制度・仕組み】

- 町会とNPO が協力し合う。
- 中学校地域でのまちづくりの懇談できる組織。
- 面を支える(地域)中間支援NPOの創出。
- 若者と高齢者をつなげられるボランティアサービス

【地域づくり】

- 生まれ育った大田区で生活が安心して続けられる地域づくりができると良い。
- 新住民が愛着をもてる地域住み続けたいと思える地域。
- 地域のために何が出来るか子ども達が考える授業が進む
- 若者と高齢者が共生できるまちづくり。

【子ども・子育て】

- 子どもを育てやすい地域が良い。
- 引きこもり不登校に対する偏見のない世界。
- フレンドホームの充実(里親制度)。週末だけ子どもを見てくれるところ。
- 子どもの権利条例が制定されている。
- 子どもに寄り添ってくれる大人が近くにいる

【見守り・ささえあい】

- 町会全体で課題のある家庭への協力が出来るようになれば良い。
- みんなが温かい目でお互いを見守る社会。
- 仕事場が子育て・見守りの場となっている。
- 誰もが声をかけあえる街

【共生・多様性】

- 障害のある方、外国人、LGBT など多様性の尊重。
- 自分と違った人と(外国にルーツをもつ人)(障がい)触れあう機会、子ども時代から。
- 子ども、障がい者、誰でも生きやすいインクルーシブな社会。
- 権利が守られる社会。

	リボン計画 (大田区地域福祉活動計画)	経営計画
位置づけ	住民活動計画	社協の組織経営の方向性を示す計画
目的・内容	地域住民、社会福祉を目的とする事業を 経営するもの、社会福祉に関する活動を行 うものが地域福祉の推進を目的として 策定する民間の活動・行動計画	社協が、地域福祉を推進する中核的な団 体として、その使命を果たすために必要 となる組織経営について、基本的な考え 方や今後の方向性をまとめる。
計画の主体 (目標の主語)	①地域住民 ②社会福祉を目的とする事業を経営す るもの ③社会福祉に関する活動を行うもの ※下記、社会福祉法第4条参照	社協
体系図	①基本理念 ②基本目標 ③5年後の地域の姿(8~10個) ④取組(8~10個)	①経営理念 ②将来ビジョン ③基本方針(3個) ④経営戦略(重点事項・いつごろまでに、 どのような結果を目指すのか)
まとめ方	各取組ごとに、 ・現状・課題 ・住民懇談会の意見 ・区民・団体・社協などそれぞれの具体的 取組をまとめる。 ・コラム(事例等の紹介) 【資料7】	・社協の使命を果たすために必要となる 人事・労務・組織・財務戦略などまとめ る。 ・部署ごとの方針・事業・推進方法を明確 にする(各事業ごとの5年間の進め方な ど)
評価方法	案1:懇談会を開催し、進捗を話合う。 案2:委員会にて意見を集約する。 案3:アンケート調査などを実施する。	各事業について、年度ごとに設定した目標 の達成状況を評価(専用シート作成)
単年度ごとの 取組み	毎年、住民懇談会を開催し、参加者それ ぞれの取組みなどについて、共有する 場を持つ。	経営計画をもとに、各年度の事業計画に 明示していく
二つの計画の 連動性	リボン計画の中に「社協としての取組」のところに、経営計画でまとめた具体的な事 業等を当てはめていく。	

※社会福祉法

(地域福祉の推進)

第四条 地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者(以下「地域住民等」という。)は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される(与えられる)ように、地域福祉の推進に努めなければならない。

○第7次リボン計画の策定にあたって

1. 地域共生社会の実現に向けて

○社会福祉の共通理念「地域共生社会の実現」

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会である。この「地域共生社会」の実現を共通理念として、現在、社会福祉のあらゆる制度・施策に浸透する取組みが進められている。

「ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)」や「ノーマライゼーション」の考え方を基本とし、誰も排除されることなく、自分らしく生活することができるような地域社会の実現を目指すことが必要である。

2. 大田区地域福祉計画実態調査報告書より

① 気軽に相談が受けられる仕組みづくり

区民の日常の悩みや困りごとについての設問では、複数の悩みを抱えている方が多く、複合課題への対応は、引き続き重要である。また、悩みや困りごとの相談先についての設問では、区の窓口や専門機関よりも、親族や知人など、多くの方が身近な人を相談先に挙げている。

② 地域活動への参加の仕組みづくり

区民の地域活動への参加意向の設問では、活動の内容次第で、8割を超す方が地域活動・ボランティア活動への参加意欲を示している。

③ 他者とのつながりや自らの居場所を持てる地域づくり

新型コロナウイルスの感染拡大以降、対面でコミュニケーションする機会が減り、人と人とのつながりの希薄化が進んでいく中、現状の区民の孤立・孤独感への影響については、「家族や友人等と話す頻度が高い」人や「自宅以外で居心地の良い場所がある」人は、社会からの孤立を感じる傾向が少ない傾向にあることが分かった。

3. 第6次リボン計画の実績と課題より

【新型コロナの影響を踏まえた実績と課題】

(1) 特例貸付の利用者について、10年に渡る償還事務の中で、生活上の様々な困りごとへの支援について検討が必要である。

(2) 子どもの貧困や社会的孤立等、新たな生活課題が浮き彫りとなった。一方で、こうした、「ほえみごはん」などの地域支えあいによる活動を新たに生まれた。また、「食料支援」等を通じて、多くの企業等の協力をいただくなど、新たなつながりが生まれ、更なる活動が広がり始めている。

【重点事項に対する実績と課題】

(1) 地域福祉コーディネーターへの個別相談をきっかけに、新たな地域活動につなげるなど、実践を重ねた。今後もさらに個別の課題を地域で支えていく仕組みづくりが求められる。

(2) 権利擁護支援について、中核機関として、検討支援会議の普及などに取り組んだ。地域連携に基づく、支援体制の強化が必要である。

4. 住民懇談会からの意見を踏まえて

いただきましたご意見を20項目にて整理した結果、特に意見の多かった項目のうち、左記の区の実態調査報告書の結果や第6次計画から見えてきた課題等と関連するもの

安心・安全、イベント・お祭り、**活動・参加**、**共生・多様性**、**拠点・居場所**、
交通・利便性、**交流・つながり**、**子ども・子育て**、自然、自治会・町会、情報、
制度・仕組み、**相談・支援**、地域づくり、**担い手・人材**、まちのイメージ、
まちの機能、**見守り・ささえあい**、歴史・文化、その他

【活動・参加】

- ・誰もが**役割**を持って生きていけるようになるといい。
- ・ノウハウ持っている人を**地域の中で活かす**。
- ・自分のできることをボランティア登録。
- ・誰もが**役割**を持って生きていけるようになるといい。
- ・誰もがちょっとだけ**役割**を持つ。

【拠点・居場所】

- ・誰でも**集まれ何でもできる場**があるとよい
- ・子ども、高齢者が**交流**できるサロンがあちこちにある。
- ・ふらっと行ける**居場所**が近くにある。
- ・障がいがあっても一緒にいられる**居場所**。
- ・地域の中に家以外の**居場所**がある。

【交流・つながり】

- ・マンションの住民でも**隣同士の関係や挨拶**がある。
- ・学生が**気軽に交流できる仕組み**があると良い。
- ・障がいのある方、高齢者**接点**があると良い。
- ・**世代を越えたつながり**、ほどよい距離もありながら。
- ・ゆるいつながり
- ・子どもが高齢者と日頃から接する**仕組み**があってほしい

【子ども・子育て】

- ・**子ども**を育てやすい地域がよい
- ・安心して**子育て**できる社会
- ・地域ぐるみでの**子育て**の仕組み
- ・**子ども**に寄り添ってくれる大人が近くにいる
- ・**子ども**の居場所少ない

【相談・支援】

- ・困ったときに**相談**できる環境 となり近所さんでも自治会でも**相談機関**でも。
- ・困った時に**すぐに対応してもらえる所(人)**。
- ・ワンストップの**相談先**。
- ・**相談窓口**を分かりやすくしてほしい。

【担い手・人材】

- ・福祉に従事する方が減少。**担い手不足**と**高齢化**。
- ・町会役員の**なり手がいない**。新人の入会が少ない
- ・あらゆる世代が**一緒に活動してお互い学び合い**同じ立場として成長できる

【共生・多様性】

- ・障がいのある方への理解、精神障害者の**認知度**が低い
- ・誰もが**参加しやすい地域** 子どもも、障害者も、病気になっても。
- ・**多世代多国籍**が暮らせる地域
- ・地域で皆が仲良く生活できる**といいな**
- ・**みんなで支えるまち**にしたい

【見守り・ささえあい】

- ・みんなが**温かい目でお互いを見守る**社会。
- ・誰もが**声をかけあえる街**
- ・**みんなで支えるまち**にしたい
災害時**つながれる関係**がある

第7次リボン計画(案)を作成

目 次 (案)

第 1 章 計画の概要

- 1 計画策定の背景と目的
- 2 計画期間
- 3 計画の位置づけ
- 4 計画策定の体制

第 2 章 地域共生社会の実現に向けた地域の現状と課題

- 1 国や社会福祉協議会の動向
- 2 大田区地域福祉計画実態調査結果から見える地域の現状と課題
- 3 第 6 次大田区地域福祉活動計画の評価
- 4 住民懇談会開催結果
- 5 本計画策定にあたり取り組む課題の整理

第 3 章 第 7 次大田区地域福祉活動計画の基本的な考え方

- 1 基本理念
- 2 基本目標

第 4 章 計画の内容

- 1 計画の体系
- 2 「計画の内容」の見方
- 基本目標 1** 顔が見える関係を大切にすまち
- 基本目標 2** 自分の居場所や役割があるまち
- 基本目標 3** 身近なところで支え合えるまち
- 基本目標 4** お互いを認め合い誰もが自分らしく暮らせるまち

第 5 章 計画の実現に向けて

- 1 計画推進にあたっての考え方
- 2 計画の進行管理

参考資料

- 1 大田区における圏域の考え方（大田区地域福祉計画より）
- 2 用語解説
- 3 大田区地域福祉活動計画推進委員会
- 4 第 7 次大田区地域福祉活動計画の策定過程

第7次計画の体系（案）

基本理念

みんなのできる 共につながり合うまち

基本目標

【基本目標1】
顔が見える関係を
大切にするまち

(1)ちょっとした声かけなど、気軽に
「つながり」をつくっている。

取組 1

日常的にゆるやかにつながり、災害時等に助け合える関係性をつくろう。

(2)地域で起きていることについて、
住民同士が一緒に考えている。

取組 2

同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながり合える場をつくり、地域の中での困りごとを受けとめよう。

【基本目標2】
自分の居場所や
役割があるまち

(1)地域の中で生きがいを持って、
生活することができる。

取組 3

地域の活動等に参加したり、役割の担い手になったりすることで、いきいきと過ごせるようにしよう。

(2)地域で居場所づくりをする人や
機会が数多くある。

取組 4

居場所を提供する団体等を支援し、人が集う機会や役割を増やそう。

【基本目標3】
身近なところで
支え合えるまち

(1)ひとりで悩まずに、相談することが
できる場所(人)がある(いる)ことを
知っている。

取組 5

地域の中には気軽に相談できる場所(人)がある(いる)ことを知り、ひとりで悩んでいる人がいたらそのことを伝えよう。

(2)身近な人の困りごとに心を寄せつ
互いに支え合っている。

取組 6

ボランティア活動や企業等の地域貢献活動を通じて、地域の中の困りごとを受けとめ、みんなで支え合おう。

【基本目標4】
お互いを認め合い
誰もが自分らしく
暮らせるまち

(1)ひとりひとりの生き方を理解し合っ
ている。

取組 7

地域で暮らす様々な人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。

(2)判断能力の低下などに関わらず、
すべての人が地域の中で自分らしく
生きている。

取組 8

障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。

地域共生社会を実現するために

住民同士がつながり結び合い、共に歩むための道標 大田区地域福祉活動計画(リボン計画)

大田社協はこんな形で 力になります！

- ・災害ボランティアセンターの運営や災害ボランティア育成講座などを開催します。
- ・住民懇談会等の地域で共に集い意見を交わす場を設けます。



大田社協はこんな形で 力になります！

- ・ボランティア体験や福祉学習の機会を設け、違いはあってもお互いを理解し合える風土づくりにつなげます。
- ・最期まで自分らしい生活が継続できるように「老いじたく」の相談支援を行います。

「日頃からの顔の見える
おつきあいを大切にしたい」

基本目標1
顔が見える関係を大切にするまち

＜必要なこと＞
災害時のたすけあい、つながりの場づくり、
自治会・町会、民生委員児童委員との連携

「まちの中に自分らしく
いられる場がほしい」

基本目標2
自分の居場所や役割があるまち

＜必要なこと＞
居場所や役割の確保、生きがいづくり

-基本理念-
みんなでつくる
共につながり合う
まち

「このまちで自分らしく
暮らしたい」

基本目標4
お互いを認め合い誰もが自分らしく
暮らせるまち

＜必要なこと＞
多様性の尊重、福祉学習の充実、権利擁護

「誰かのために
力になりたい」

基本目標3
身近なところで支え合えるまち

＜必要なこと＞
ボランティア活動やCSRの推進、困り
ごとの受け止め、支え合いの地域づくり

大田社協はこんな形で 力になります！

- ・つどいの場支援事業や地域福祉活動団体支援事業を通じて、居場所づくりや役割のある暮らしを応援します。
- ・元気な高齢者の就労機会を増やし、生きがい・やりがいのある暮らしを応援します。



大田社協はこんな形で 力になります！

- ・時には支え、また時には支えられる豊かな関係性を地域に広げるため、ボランティア活動や、企業の地域貢献活動を推進します。
- ・どこに相談したらいいのかわからないような困りごとの相談を受け止めます。

地域福祉を推進する中核的な団体として、持続可能な組織づくりと、リボン計画の着実な実践を目指すための計画

大田区社会福祉協議会経営計画

基本目標1 顔が見える関係を大切にするまち

取組1

日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助け合える関係性をつくる。

現状と課題

【大田区地域福祉計画実態調査結果】～区民向け調査より～

- ① 現在の近所づきあい(問14)
・あいさつをする程度 46.9% ・立ち話をする程度 25.1%
- ② 普段の生活で近隣の住民同士が自主的に支えあうために自分ができること(問24)
・できることがある 80.0%
《できることの詳細、一部抜粋》
・近隣の方に積極的に挨拶をする 61.4%
・近隣の方に日頃から積極的に声をかける 17.2%
- ③ 大規模災害時に地域でできる活動(問28)
・できることがある 83.9%
《できることの詳細、一部抜粋》
・身近な人への声かけ・安否確認(連絡代行含む) 54.4%
・地域の人たちと災害状況を共有すること 50.1%

グラフ等により、
傾向を示す

これまでの取組

【災害ボランティア初めて講座の実施】

大田区では、区、社協、地域パートナーシップ支援センターの3者協定に基づき、災害ボランティアセンターを開設、運営を行うことになっています。区民の災害ボランティアへの関心と理解を高めるため、「災害ボランティア初めて講座」を実施しています。

本講座には、毎回、自治会町会、民生委員児童委員、地域活動団体など様々な方が参加しています。

災害ボランティアの役割などを学ぶと同時に、災害時の備えとして、日ごろからの近隣との関係づくりの重要性や、地域の中でどのような助け合いができるのかを考えるきっかけとなっています。



住民懇談会の意見

令和5年度に区内4地域で実施した住民懇談会では、以下のようなご意見をいただいています。

こんな意見がありました

困りごと

- ・自治会・町会を担う方が高齢化している。
- ・コロナでつながりが薄くなった。
- ・新しい住民・若い親・家庭など、つながりづくりが難しくなってきた。
- ・横のつながりがほとんどない。
- ・地元にかかわる人が少なくなっている。
- ・マンションの住民など、ほとんど知らないことが多い。
- ・他人に対して無関心になっている。
- ・世代間の交流がない。

相談・支援

- ・相談窓口をわかりやすくしてほしい(わかりにくい)。
- ・一人暮らし高齢者のフォローがあるとよい。
- ・生活に困っている人が見える。
- ・制度が多すぎて、使い方がわからない。
- ・8050問題に対して、具体的な取り組みがわからない。
- ・ワンストップの相談先。

助け合い・ささえあい

- ・自治会・町会の活動が盛んである。
- ・お祭りなど、町会や福祉施設とつながりがある。
- ・昔から住んでいる方が多く、子どもたちの見守りをいただいているイメージがある(登下校や公園など)。
- ・町会全体で課題のある家庭への協力ができるようになれば良い。
- ・誰もが声をかけあえるまちになるとよい。

5年後に目指す地域の姿

現状と課題、住民懇談会でのご意見を踏まえて、次のような5年後の地域の姿を目指します。

ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。

区民ができること

- ・近所の方とあいさつをする。
- ・近くにある福祉施設や地域の居場所などを探してみる。
- ・自分の住んでいる地域に興味を持つ(自治会町会の掲示板をチェックする)。
- ・地区のお祭りや防災訓練に参加してみる。
- ・地域のイベントなどを手伝ってみる。

地域活動団体や社会福祉法人、事業者ができること

- 地域活動団体としてできること
 - ・地区イベントなどに参加し、地域の方と交流する機会を持つ。
 - ・地域の困りごとなどを、関係機関と情報共有をする。
- 社会福祉法人としてできること
 - ・地域の中で、どのような福祉課題があるのかを住民や関係機関から積極的に
 - ・福祉施設としての強みを生かしながら、地域の課題解決に向けた取り組みを積極的に展開していく(地域における公益的な取組の実施)。

大田区社会福祉協議会ができること

- ・地域で暮らす方や活動する方などが、地域の課題を共有する場をつくる。
(多様なプラットフォームの展開、住民懇談会の開催)
- ・プラットフォームから生まれた新たな地域の取り組みを支援する。
(地域福祉コーディネーターによる地域づくり支援)
- ・災害時における備えや地域の情報などを知る機会をつくる。
(災害ボランティア初めて講座など)

【コラム】地域づくりのための「プラットフォーム」

地域の福祉課題が複雑化・深刻化する中、ひとつの団体だけでは解決できない困難な課題の壁があります。この壁を乗り越えるためには、地域住民、行政、社会福祉法人、区民活動団体、専門家などの関係機関(者)がそれぞれの強みを活かし、連携して解決に取り組む必要があります。

【矢口助けあいプラットフォーム】

矢口地区で活動する民生・児童委員、町会自治会の皆さまの他、区や社会福祉法人、活動団体のメンバー30名が集まり、『子どもたちを支える為に私たちができることが何か』について話し合いました。

活発なグループワークが行われました。地域の交流が深まり「子どもを守りたい!」との思いで学校と地域がつながるきっかけが生まれました。

